

春日市指定管理者導入施設の業務実績評価【対象年度:令和7年度】

1 基本情報

施設名	光町・毛勝・白水児童センター
指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団
指定期間	令和5年4月1日から令和10年3月31日まで(5年間)
担当所管	こども未来課こども政策・給付担当

2 施設情報(休館など)

・開館時間:10時から17時まで

3 利用者数

指定期間	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
年度	年度 令和5年度	年度 令和6年度	年度 令和7年度	年度	年度
	前年度比	前年度比	前年度比	前年度比	前年度比
利用者数 合計	70,739人	109,909人	96,287人		
施設内訳					
光町児童センター	29,808人	30,237人	25,654人		
毛勝児童センター	8,094人	47,559人	41,517人		
白水児童センター	32,837人	32,113人	29,116人		

4 履行確認項目への評価

分類	履行確認項目	評価の視点	確認内容	評価	特記事項
施設維持管理	清掃	適正に実施されているか	・事業報告書 ・日報(現地確認)	◎	・館内のみならず、隣接する公園等施設外周の清掃を行い、来館者や地域住民が気持ちよく過ごせる環境整備を行っている。
	設備保守点検	・適正に実施されているか ・不具合の対応は適切か	・事業報告書 ・日常点検チェックシート ・点検記録(現地確認)	○	
	警備	・適正に実施されているか	・事業報告書	○	
	小規模修繕	・適正に実施されているか ・不具合の対応は適切か	・事業報告書 ・帳簿、見積書、完了報告書(現地確認)	○	
運営業務	運営状況	・公共性・公平性を確保しているか ・事業計画等どおり事業を実施しているか	・事業報告書	○	
	サービス水準の維持	・サービスの水準を維持する努力はなされているか ・課題解決の努力をしているか	・事業報告書	◎	・職員と対戦型のミニゲーム大会や、他校や異学年間の交流ができるような行事を増やすことで、小学生の利用増加(4%)につなげている。 ・中高生の意見・要望を運営に反映し、夕方開放事業である「トワイライトゾーン」の実施回数の増加や開館時間延長を施行するなど、継続して中学生の利用増加(31%)につなげている。
	利用状況の把握	適切な施設の利用状況か	・利用状況統計表 ・事業報告書	○	
状況理	収支決算状況	・適正に執行されているか ・管理コストが上昇していないか	・帳票の管理(現地確認) ・収支状況 ・利用者あたりの管理コスト(支出/延べ利用者数)	○	<管理コスト> R5:873.04円 R6:626.74円 R7:717.89円
運営体制	人員の適正な管理	・人員の適正な配置 ・継続的なレベルの維持に努めているか	・事業報告書 ・人員の配置状況・勤務体制(現地確認)	○	
	利用者の苦情・要望等の対応体制	苦情等への対応は適切か	・事業報告書 ・報告書の作成状況(現地確認)	○	
	危機管理体制の確保	・事故・災害発生時の対応はできているか(事業計画書どおり実施されているか)	・事業報告書 ・マニュアル等の整備、訓練等の実施実績(現地確認)	○	
	関係機関・地域との連携体制	連携を図るための組織・体制を整えているか	事業報告書	◎	・学校:不登校会議などに定期的参加、学校行事の受入れ(校区探検や生活科や社会科学習)、特別支援学級の校外学習の場の提供、中学生ボランティア等の参加、職場体験事業(高校生)や実習生(大学生)等の受入れ ・地域:隣接公園の早期清掃、夜間防犯パトロール、地域育成部主催行事、子育てサロン等に参加。地域の子育て支援サークルや地域ボランティアの人たちと連携・協力(読み聞かせ行事や保護者向けリフレッシュ行事)
その他					

5 加算項目への評価

評価内容	特記事項
困難を抱えるこども・子育て家庭への支援の実施	休日に昼食を食わずに終日来所する子どもが増えており、児童の健康増進に寄与するため、軽食中心の調理系の行事数を増やすなどで対応している。 また、各公民館行事や子ども食堂、社会福祉協議会の相談cafe、同法人が運営する「地域福祉事業所ひまわり(居場所や支援の提供を実施)」のイベントや行事を紹介するなど、他機関・他事業との連携を図りながら、児童やその保護者への手厚い支援を実施している。

6 総合評価

評価	コメント
B+ 適正であり、概ね優れている。	・帳簿や報告書を確認し、施設管理面・運営面ともに概ね適切に実施されていることを確認した。特に小中学生の居場所として、意見・要望やこども達の状況を踏まえながら効果的な事業を実施できている。 ・地域子育てサロンや地域行事への出前、地域住民や学生ボランティアに対する児童センターの大型行事への参加の呼びかけ等により、地域住民との交流促進を図るとともに子どもたちに地域交流や異年齢交流の場を提供している。また、社会的困難を抱く子どもや保護者を孤立させず支え合うことを目的とし、他機関連携により子ども・子育て家庭の継続支援を実施している。